

# 肝膿瘍



## 肝膿瘍とは

名前のとおり肝臓に膿瘍ができる病気です。特に乳用肥育牛に多く発生します。

## 原因

炭水化物、濃厚飼料の多給や粗飼料の不足等で第一胃内の pH が低下することにより、胃壁が損傷し、そこからフソバクテリウム等の化膿菌が肝臓に運ばれることで起こります。

## 食肉検査では

肝膿瘍があると肝臓が廃棄されます。表面の膿瘍が横隔膜と癒着していることも多くこの場合は、横隔膜も廃棄になります。

また、肺に膿瘍ができたり、静脈内に血栓ができた時は、敗血症等で**全部廃棄**になる場合もあります。

## 参考

肝膿瘍の発生率と枝肉成績との関連についての調査では、肝膿瘍の発生が多い生産者では枝肉成績が悪い傾向にあり、肝膿瘍を多発させる飼養管理による経済的損失は大きいとの報告もあります。



正常な肝臓



肝膿瘍の肝臓

当所における肝膿瘍による肝臓の廃棄率

	H27	H28
乳用牛	3.7%	4.2%
乳用肥育牛	12.0%	11.3%
肉用牛	9.8%	8.2%

## 予防・対策

- ・ 濃厚飼料の多給をさけ、良質な粗飼料を適量給与する。
- ・ 長距離輸送や飼料の急変等のストレスを避ける。

リーフレットの内容に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

北海道東藻琴食肉衛生検査所

TEL 0152-66-2001 FAX 0152-66-3576

HP <http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/ds/hse>